

海外安全対策情報（2013年7月～9月）

1 社会・治安情勢

勤務中の警察官が殺害され小銃が略奪される事件が8月に3件発生したことを受け、ウガンダ警察は単独勤務を禁止するとともに、自己防衛以外の目的で銃器を使用することを容認する旨発表しました(9月2日)。2007年以降、銃器を使用した凶悪犯罪が減少し治安の安定が見られたことから、警察は独自に銃器の使用に関する規制を設けていました。しかし、今回の事件を重く見た警察は、今後、銃器を使用した凶悪犯罪が増加していくことを懸念し、武装強盗等を発見した場合、銃器の使用を積極的に行っていく方針を取ることにしました。

○カンパラ県(Kampala)

報道(8月2日)によると、市内において窃盗被害が多発している地域は以下のとおりとなっています。また、警察は歩行中の引ったくりだけでなく運転中においても注意が必要だとし、ドアロック及び窓を開放しないよう注意喚起しています。何れも人混みが多く慢性的に渋滞が発生している地区です。

- ・時計塔(Clock Tower)
- ・キセカマーケット, ナキウボ(Kiseka Market, Nakivubo Rd)
- ・ジュンジュ(Jyunju Rd)
- ・ムクワノ(Mukwano Round About)
- ・アルアパーク(Arua Park)

○トロロ県(Tororo)

報道(8月13日)によると、トロロ県では武装強盗が増加していることが問題となっているなか、警察官が犯罪者に銃を貸出し金銭を受け取っていたことが発覚し逮捕されました。

2 一般犯罪・凶悪犯罪

(1) 盗難・強盗事件

○カンパラ県(Kampala)

警察発表(7月19日)によると、ブウェヨゲレレ、バンダ及びキレカでは、日中においても鉄パイプを所持した強盗に襲撃される事件が発生しています。同地域は犯罪発生率が高く、その背景に失業率の高さが挙げられています。また、最近の事件として、隣国ルワンダの首都キガリ(Kigali)からカンパラへ向かっていたバスが襲撃され、乗客1名が死亡しました。なお、報道(7月29日)によると、鉄パイプを所持した強盗に襲撃され入院する患者は月100人以上おり、その内2,3人が死亡しています。

(2) 殺人事件

○カユンガ県 (Kayunga)

警察発表(7月7日)によると、6月に発生した頭部斬殺事件の容疑者が取り調べに対し、頭部は伝統薬を調剤するのに使用したと供述。同県では今も尚、頭蓋骨等の取引が闇で行われているものと思われます。

○マサカ県 (Masaka)

7月9日夜半、マリアフローホテル (Maria Flow Hotel) の警備員が殺害され、携行していた小銃が奪われました。

○キルフラ県 (Kiruhura)

8月17日夜半、10人組の強盗が民家に押し入り、家族6人を殺害し逃走しました。翌日、犯人は逮捕されました。

(3) 強姦事件

○イガンガ県 (Iganga)

警察発表(7月7日)によると、先月35件の強姦事件が発生。5月53件に比べ減少しましたが、1日1件以上の割合で事件が発生しています。また、報道(7月11日)によると、同県では今年に入り270人の女性が強姦被害に遭っていますが、事件が発覚していないケースもあるため、実際はそれ以上の女性が被害に遭っているものと思われます。

○ムバレ県 (Mbale)

警察発表(7月27日)によると、毎月100人以上の女性が強姦被害に遭っています。しかし、被害届が提出されないケースもあるため、実際はそれ以上の女性が被害に遭っているものと思われます。エルゴン地域 (Elgon: ムバレ, シロンコ, カプチョルワ) は、ウガンダ全土で最も多く強姦事件が発生している地域です。

3 テロ・爆弾事件発生状況

(1) テロ・爆弾事件は発生していません。しかし、ウガンダにおけるテロの脅威は依然として高く、警察発表(8月4日)によると、北アフリカ及び中東での米国大使館の一時閉鎖を受け、当地においてもアルカイダによるテロの脅威が潜在していることから、テロ警戒体制を更に強化すると公言しました。

(2) 警察発表(8月12日)によると、2010年7月に発生したテロ事件以降、ウガンダ警察は20人以上のテロリストを逮捕しました(逮捕者は2010年のテロ事件と関係ありません)。当地のテロリスト対策については、国内情報網が確立されている他、ウガンダ警察及び軍にテロ対策専門部隊が設けられているとともに、近隣諸国および友好国との情報交換が随時行われ情報共有が図られていること

から、テロ事件を未然に防止できていると述べています。また、逮捕者の中にウガンダ人が含まれていることも公表しました。

(3) 9月21日に発生したケニアでのテロ事件後、ウガンダにおけるテロ対策はこれまで以上に 심각한態勢となっています。ウガンダは、2010年7月に74人が死亡、84人が負傷する大規模なテロ事件が発生した後、 심각한警備体制が敷かれ治安の安定が保られてきましたが、今回のテロ事件を受けて更なる追加対策が取られました。

○国境警備において通常より高いレベルでの警戒・監視。

○公共施設(ホテル, ショッピングモール)において制服および私服警官の臨時配置。

○公共施設の警備担当者にテロ対策に関する指導を実施。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

報道(8月16)によると、ナイジェリア人4名が2件の誘拐事件に関与しているとして逮捕されました。容疑者達は、海外在住の外国人投資家に投資話を持ちかけ誘致し、当地へ訪れた際に犯行におよび本国家族に身代金を要求していました。

○マキンヂェ (Makindye)

7月某日発生、被害者は豪州人。身代金35万ユーロを支払い解放されました。

○ルボワ (Lubowa)

8月13日発生、被害者は米国人。身代金として5万ドルが要求されました。

5 日本企業の安全に関わる諸問題

対日感情が良好なこともあり、日本企業であることを理由に標的にされる可能性は低いです。

以上